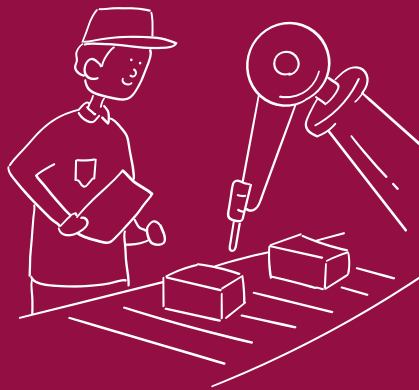
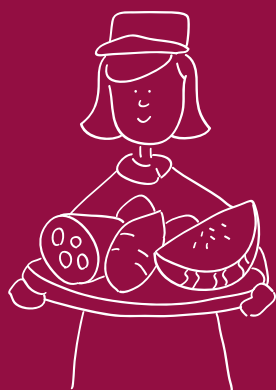


第6章

活力ある魅力的なまちづくり

6次産業化や特産品化等による農業生産性の向上、圏央道を活かした商工業の活性化、雇用の場の確保、霞ヶ浦を活かした魅力的な観光の振興等、地域特性を活かし、職住近接の賑わいあふれるまちづくりに取り組みます。



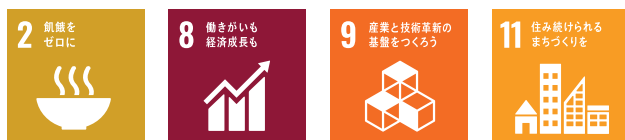
第1節 賑わいのあるまちづくり

- 1 活力ある農業の振興
- 2 商工業の活性化
- 3 地域資源を活かした観光の振興

■章の指標

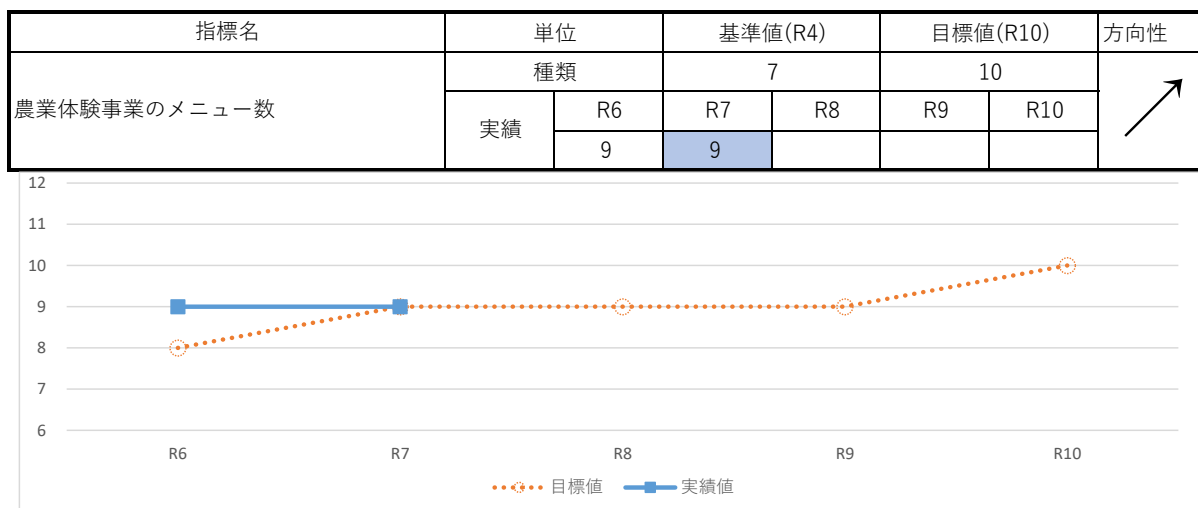
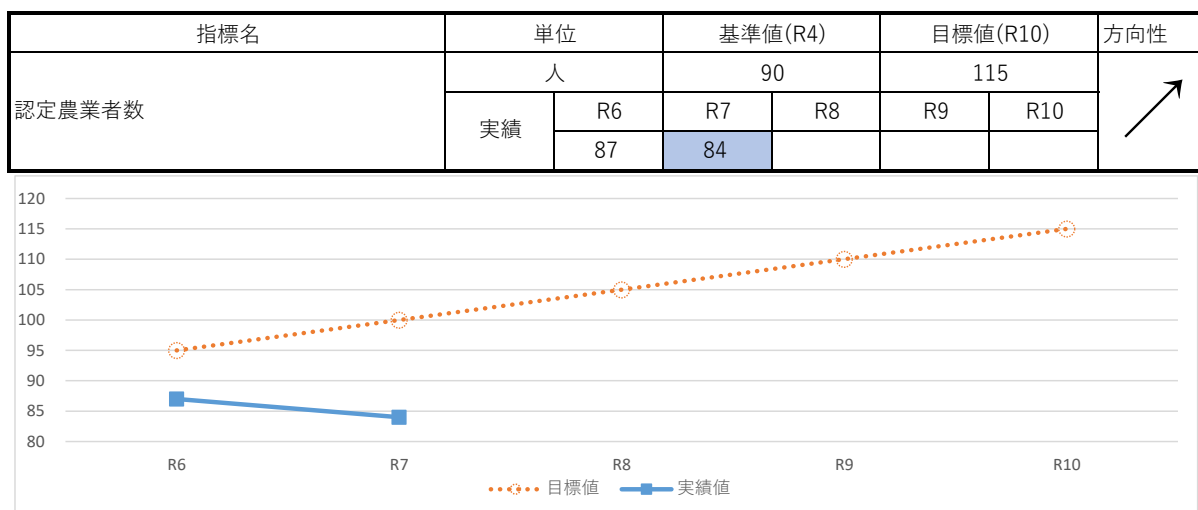
指標名	方向性
産業の賑わいにより活力があると感じている町民の割合	↗

■この章に特に関連の深いSDGsのゴール



第6章 第1節 第1施策		関連する SDGs					
節	賑わいのあるまちづくり						
施策	活力ある農業の振興						
目指す姿	農業の持続的な発展のため、生産性向上の取組や、農林水産物のブランド化による魅力度向上により、意欲ある認定農業者や新規就農者・農業後継者が増加し、地域農業の振興と活性化が図られています。						
関連する課	農業振興課 学校給食センター				関連する 個別計画		

施策の現状と課題	認定農業者の確保については、新規就農者等から認定農業者への誘導を図る必要があるが、既存の認定農業者の高齢化が著しく、脱会による減少が懸念される。新規就農者支援については、申請者の実情に応じて関係機関と連携を図りつつ、安定的な定着を目指す。近年では農業資材、燃料等の高騰などが課題となっている。
----------	--



施策の進捗	今後の取組方針
C	認定農業者については、中長期的に農業経営を実践する意欲ある担い手を、地域計画に基づく地域の話し合いにおいて明らかにする。そして、離農等による優良農地を計画的に集約し、地域における農地の有効活用と荒廃農地の防止に努めるとともに、担い手の規模拡大、農業所得の向上に寄与する。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	学校給食における県産食材の割合は、高い水準を維持している。目標値に近づけるよう、献立作成の工夫を継続していく。 町の基幹作物である水稻作に関しては、国補事業に準じて適性に支援を図っている。また、畑作については、特産品であるスイカ、メロン、トウモロコシ、レンコン等の生産維持を始め、町で産地化を推進している常陸秋そば、馬鈴薯、甘藷については、生産拡大、安定生産に向けて関係機関と連携しながら積極的に支援を図り、地域農業の活性化を推進している。
R7	農業者への補助金交付や各種農業振興事業を推進するとともに、関係協議会・会議へ参画し、地域農業の振興及び関係各署との連携強化に取り組んだ。認定農業者数においては昨年度より3名減となったが、引き続き担い手の確保に努めていく。また、地域計画については、令和6年度に全地区の地域計画策定を完了し、令和7年度に2地区の計画更新を実施。農地集積・集約化の推進を図った。
R8以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
気候変動により、農産物の安定的な供給が確保できない事態が頻発しており、さらにイラン情勢の影響により農業資材、燃料等が高騰している。これらの要因が農業者の経営に大きな影響を与えている。また、農業者自体の高齢化、後継者不足も深刻である。

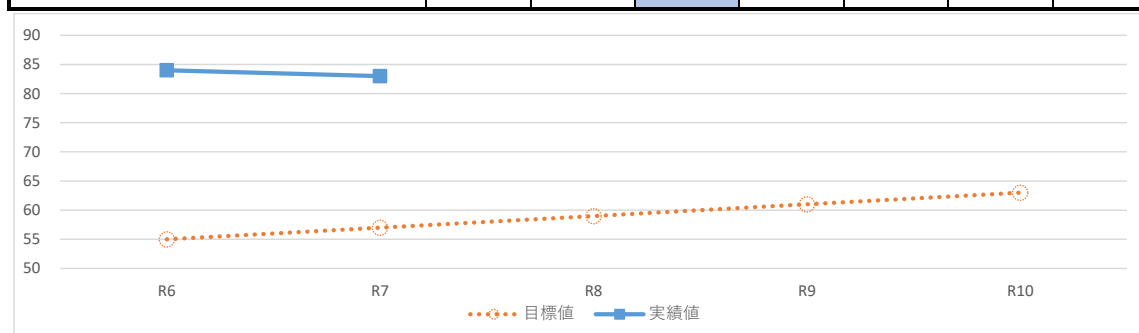
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	引き続き、関係機関と連携し地域計画の更新を進め、農地の集積・集約化や担い手の発掘育成を推進し、農地の有効活用、産地化を図るなど農業振興に取り組む。また、町の農産物を積極的にPRするため大学等関係機関とも連携し、新たな農業体験を推進していく。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
農業の生産性の向上	担い手を中心となり、地域の特性を活かした農産物の生産の定着と産地化が促進されています。	農業振興推進事業
優良農地の保全と担い手への集積・集約化	農用地の効率的かつ総合的な利用が図られています。	農業集積加速化支援事務 耕作放棄地再生利用対策事務
担い手の確保・育成	次世代農業の担い手となる新規就農者や農業後継者が確保・育成され、地域農業の振興と活性化が図られています。	新規就農者支援事業 農業後継者支援対策事務
生産基盤の整備と保全	地域資源の適切な保全管理が推進され、多面的機能の発揮と農村の振興が図られています。	多面的機能支払交付金事務 農業生産基盤整備事務 石川地区県営土地改良事務
地産地消の推進	地域で生産された農産物を通して、農業の振興と町民の健康で豊かな食生活が営まれています。	食育活動事務 農業体験事務

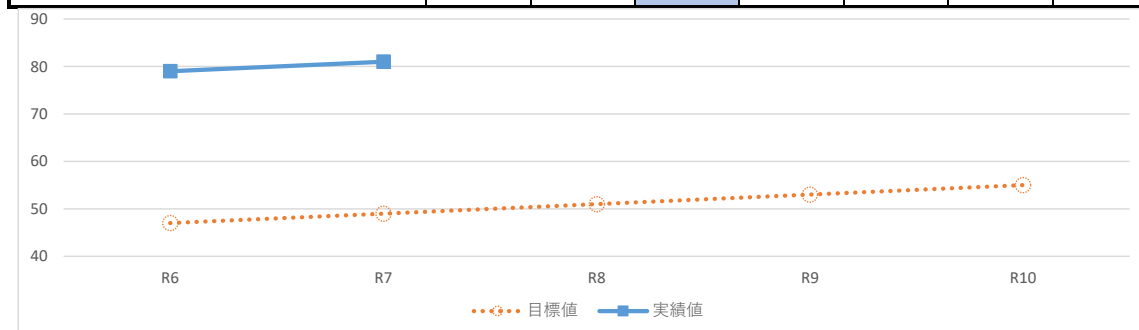
第6章 第1節 第2施策		関連する SDGs	8 持続可能な 産業	9 持続可能な 産業
節	賑わいのあるまちづくり			
施策	商工業の活性化			
目指す姿	圏央道等の広域的なポテンシャルにより、新たな企業の立地や既存企業による設備投資等が進むとともに、大企業と中小企業との連携等により地域産業の活性化も進み、雇用の創出と地域経済の活力につながっています。			
関連する課	商工観光課	関連する 個別計画		

施策の現状と課題	中小企業における経営安定化を図るための事業改善や資金調達、特産品開発等の支援の継続や支援策の活用促進を図るための更なる周知、町内の業務用地の利用地解消のための県と連携した立地促進のためのアプローチ、企業求人の充足を図るための企業ニーズに則した雇用対策等の取組の強化などの課題がある。
----------	---

指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
町創業支援の利用者数	者	53		63		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	
		84	83			



指標名	単位	基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
就職転職フェアの参加者数	人	43		55		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	
		79	81			



施策の進捗	今後の取組方針
B	真に支援が必要な事業者に必要な支援を行うために、事業者ニーズを的確に把握するとともに、様々な媒体を通して、支援策の更なる周知・啓発に取り組む。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	補助金の交付や就職転職フェアの開催等により、産業活動の活性化が図られると共に、働く町民が増加することにより所得が向上した。
R7	町創業支援ネットワークを活かした支援策の継続的な実施、自治金融制度や各種保証制度等による中小企業の資金調達の支援、就職転職フェアの開催や求人情報の提供により、町内企業の人材確保が促進され、生産性が向上や地域経済の成長に繋がっている。
R8以降	

今後発生が予測される課題	
牛久阿見インターチェンジ周辺への新たな事業環境創出に伴い、茨城県とともに企業の立地促進に取り組むとともに、更なる雇用創出のための施策を強化する必要がある。	

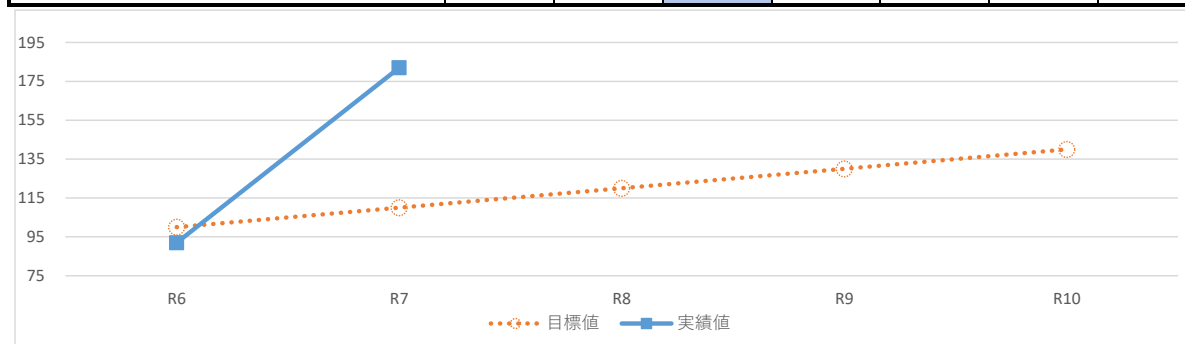
施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	町創業支援ネットワークにおける創業支援機関との連携強化による創業希望者への開業支援、県信用保証協会と連携した自治金融制度や各種保証制度等による中小企業資金調達支援、ハローワークとの連携による雇用支援策の拡充、県と連携した企業立地の促進や雇用の創出等の施策を展開することにより、地域経済の活性化に取り組む。
施策の評価基準	I 現状のまま継続する II 一部見直し等の余地がある III 見直し等の余地が大きい IV 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
商工業環境の充実	新規事業等に取り組む事業者や町内で開業する事業者が増え、様々な産業活動が活発に行われています。	商工振興事業 創業支援事務 中小企業金融支援事務
企業誘致と連携体制の強化	新規企業が立地するとともに、町内企業も人材確保や設備導入等により生産性が向上し、地域経済が成長しています。	企業誘致事務 雇用促進事務
雇用対策の促進	町内で働く町民が増え、町民の所得が向上しています。	雇用促進事務 企業誘致事務

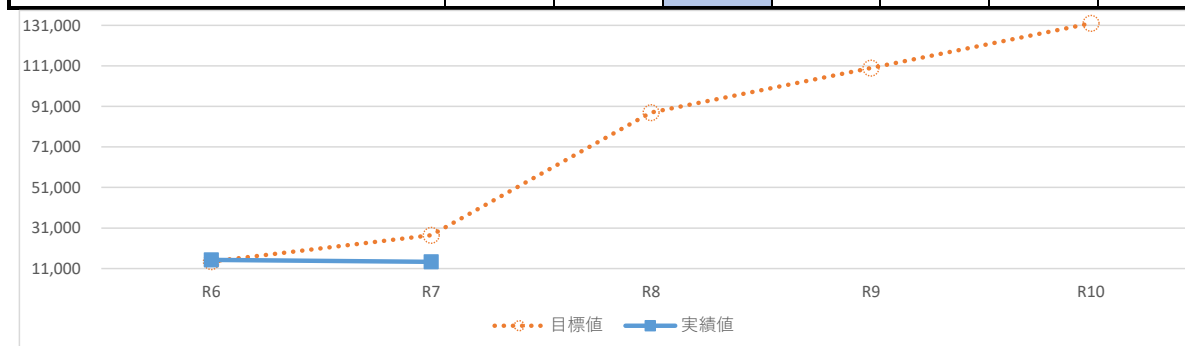
第6章 第1節 第3施策		関連する SDGs	8 働きがい、 経済成長	15 生物多様性 の保全
節	賑わいのあるまちづくり			
施策	地域資源を活かした観光の振興			
目指す姿	つくば霞ヶ浦りんりんロード、霞ヶ浦が持つ雄大な自然景観、予科練平和記念館、あみプレミアム・アウトレット等、ポテンシャルの高い地域観光資源が活かされ、多くの観光客が訪れるまちになっています。			
関連する課	商工観光課 道路課、文化課、政策企画課		関連する 個別計画	

施策の現状 と課題	令和7年度に発足した一般社団法人あみ観光協会において、アウトレット内に地域特産品や加工品を取り扱う観光物産館を開設し、観光の拠点として町の魅力向上と賑わいの創出に取り組んでいる。また、つくば霞ヶ浦りんりんロードの整備により、霞ヶ浦湖岸の親水性が向上している。今後は、アウトレットを中心に訪れる観光客を町内へいかに誘客させるかが課題である。
--------------	---

指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
レンタサイクル貸出数	台		80		140		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		92	182				



指標名	単位		基準値(R4)		目標値(R10)		方向性
あみ観光物産館（amicolle!）の来客数	人		11,108		132,000		↗
	実績	R6	R7	R8	R9	R10	
		15,268	14,306				



*あみコミュニケーションセンターは、令和7年10月より「あみ観光物産館（amicolle!）」にリニューアルオープンしたため、指標名を変更。それに伴い、令和7年10月からあみ観光物産館の来館者で計測する。

施策の進捗	今後の取組方針
B	アウトレット内に開設した観光物産館を拠点に様々な観光振興事業に取り組めるよう、効果的な運営支援・指導と有益な観光情報の提供を行う。また、霞ヶ浦の親水性の向上の取り組みにおいては、引き続き、関係部署と連携したサイクリングロードの整備と国体跡地の利活用検討に努める。
進捗の評価基準	A 順調に進捗している B 概ね目標達成に向けて進捗している C 一部進捗に遅れが生じている D 進捗が大幅に遅れている

事業の成果	
R6	地域資源を活かし、PRに取り組むことで、地域の魅力向上と町内誘客施設やスポットへの誘客促進を図った。また、サイクリングロードの空間整備と国体跡地の利活用検討に取り組むことで、霞ヶ浦湖岸の親水性向上を図った。
R7	令和7年4月1日に法人化した、一般社団法人あみ観光協会が運営する観光物産事業や協会HPやSNS等で観光PRに取り組むことで、地域の魅力向上と町内誘客施設やスポットへの誘客促進を図った。また、霞ヶ浦湖畔を周遊するサイクリングロードの新たな貸出・返却施設追加の協議と国体跡地の利活用検討に取り組んだ。
R8以降	(次年度以降、こちらの欄に、毎年度事業の成果を記載します)

今後発生が予測される課題
あみ観光協会が自走できるようになるための自主財源事業が必要である。

施策の評価	施策の方向性・取組方針
II	令和7年度に発足した町観光の推進母体である一般社団法人あみ観光協会と連携し、様々な地域資源等を活かした観光施策に取り組むことで、町の魅力向上と地域の活性化に取り組む。
施策の評価基準	Ⅰ 現状のまま継続する Ⅱ 一部見直し等の余地がある Ⅲ 見直し等の余地が大きい Ⅳ 抜本的に見直し等が必要

施策の目標達成のための個別施策		
個別施策	前期期間の取組の成果	主な事務事業
観光資源の活用と発掘	町の魅力ある観光資源を活用・PRすることで、地域の観光資源が活かされ、町の観光スポットへの誘客が図られています。	観光振興事業 教育普及事務 あみコミュニケーションセンター事業
湖岸親水ゾーンの整備と活用	安全で快適なつくば霞ヶ浦りんりんロードを通して、多くの人が町に訪れ霞ヶ浦に親しんでいます。	サイクリングロード整備事務 国体跡地利活用検討事務